

## グラム染色の重要性を再確認

- *Cryptococcus neoformans* の 1 例 -

◎山本 翔太<sup>1)</sup>、荒木 優花<sup>1)</sup>、山本 佳織<sup>1)</sup>、今林 尚美<sup>1)</sup>、矢壁 聡子<sup>1)</sup>、加藤 康男<sup>1)</sup>  
福岡赤十字病院<sup>1)</sup>

【はじめに】*Cryptococcus neoformans* の感染によって起こるクリプトコッカス症は日和見真菌感染症の 1 つであり、本菌は球形・垂球形で周囲に酸性ヘテロ多糖からなる莢膜を有する。本菌の莢膜により、グラム染色では菌体周囲が赤く染められ、墨汁染色では菌体周囲が抜けて見える。今回、血液および尿培養から本菌が検出されたので報告する。

【現病歴】86 歳女性。20XX 年 11 月中旬、気分不良・呼吸苦を主訴に前医を受診、酸素化低下と心房細動を認め当院へ救急搬送された。来院時の CT/レントゲンにて鬱血性心不全、血液検査にて成人 T 細胞白血病 (ATL) と診断され加療目的で入院となった。20XY 年 1 月下旬、肺炎の増悪ありその際血液培養 2 セットおよびカテーテル尿が採取された。

【細菌学的検査】1 日目：血液培養開始。尿のグラム染色にて酵母様真菌を確認。2 日目：尿培養から *Candida* と思われるコロニーを純粋培養。3 日目：血液培養で好気ボトル 1 本が陽性となり、グラム染色にて酵母様真菌

を確認。尿培養の血液寒天培地で *Candida* とは異なるコロニーの発育を認め純粋培養。4 日目：血液培養のサブカルチャーで *Candida* とは異なるコロニーの発育を認めた。ここで以前、別の症例で本菌による血液培養陽性を経験したため、再度グラム染色と墨汁染色を追加し莢膜を確認した。同定は外部の検査センターへ委託し、*C. neoformans* と確定した。

【考察】本症例は、ATL を背景に呼吸器より全身へ播種したと思われる。提出時の尿のグラム染色を再度鏡検したところ、本菌と *Candida* の混在が確認できた。今回、経験の浅いスタッフが鏡検したため、酵母様真菌 = *Candida* という先入観があり、本菌を疑うことができなかった。提出時に本菌の特徴である、菌体周囲が赤く染められることが確認できていれば、その際臨床へ報告できたと思われる。

【結語】今回の症例から、グラム染色の重要性、そして鏡検技術の向上が必要であると考えさせられた。  
(連絡先：0570-522-3066)